

読者ひろば

Readers' square

ハンセン病の 教訓広げたい

高谷和生 63歳 ボランティア

アガイド

(玉名市)

昨年12月末、1年の活動納めとして半年ぶりにハンセン病療養所・菊池恵楓園のガイド活動を行った。園内北側家族舎の平屋はすっかり姿を消し、大多数を占める後期高齢者のセンター入居が進んでいた。園内入所者数は最大だった1740人から229人となり、

男性は100人を切った現状に衝撃を受けた。恵楓園はさらに大きく姿を変えていた。

当日のガイドでは、回復者の思いが詰まった歴史的建造物を残し、歴史資料を積極的に生かし、入所者の名誉を回復しつつ、地域の問題として向き合う必要性を訴えた。これは、地域にとってハンセン病療養所がいまだに理解される施設とはいえない中、岡山でNPOが主体となって世界文化遺産登録への運動を進め

ている最新の動向にならったものだ。

また、地域の支援学校教職員に対しては、ハンセン病問題と病弱児や疾病との関連性、社会から受けている差別の実相等を共通する課題として話した。ただし私自身のガイド力の不足からか、ハンセン病問題の教訓を、障がい者への社会差別に関連させることの難しさを感じた。

先日、旧優生保護法下で障がい理由に不妊手術が強制された宮城県の女性が「重大な人権侵害」

「立法による救済措置を怠った」として国に損害賠償を求める訴訟を起こしている。

ハンセン病患者への強制的な不妊・断種手術に関しては、国判決後に国や熊本県検証会議等によりある程度は解明されてきた。しかし同法が対象とした他の疾患等には広がらず、国による障がい者らへの実態調査もなされていまいという。これでは事実を密閉し、被害者救済を怠った過去の誤った歴史の繰り返しである。

ハンセン病の教訓をモデルとして広げ、障がいゆえに差別される人々の人権救済を、今後私たちが共に取り組む時がきている。

「読者ひろば」への投稿は4000～6000字。「主張・提言」に採用することもあります。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直す◇ことあります◇原稿は返却しません。二重投稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用です。掲載分には薄謝を送ります。

投稿される方へ

◇モノクロ作品集 「私の一字」＝好きな文字一字を書き、その理由も。「モノクロギャラリー」＝イラスト、写真など、タイトルを付けて。はがき、封書、メールで年齢、職業も忘れずに。作品は返却しません。あて先は①郵送〒86601-8506、熊本市中央区世安町1-72、熊日「読者ひろば」係②ファクス 096(3366)1268③メール hiroba@kumamichi.co.jp